

## 事務所長からのメッセージ

- 2月7日に発表しました「[金融経済概況\(道北地区\)](#)」では、道北地域の景気の基調的な判断を「やや弱めの動きとなっている」として、前月と同様の表現に据え置きました。ただ、仔細にみていただきますと、ところどころに変化があるほか、平成19年中(年間)の計数もほぼ出揃いましたので、是非本文をご覧くださいと思います。
- ごく簡単に主な変化点を整理しますと次のようなことになるとと思います。まず、先月まで、「横ばい圏内の動き」と表現していた個人消費を、「やや弱めの動き」に若干下方修正しました。これまでも、「横ばい圏内」の下限に位置していると説明しておりましたが、時の流れとともに少々違和感が出てきましたので、このように変更しました。また、公共投資については、先月まで「減少傾向にある」と表現していましたが、当月の計数まで含めるとそのように言い切れない面もあるため、基調としては低めに推移しているとの意味で「低調に推移している」に変更しました。双方とも、道北地域の経済の実態を曇りのない眼でみた結果であります。「悲観的に準備し、楽観的に行動せよ」これは、危機管理の鉄則であります。厳しい現下の道北経済情勢においても、今は将来に向けて周到に準備をする一方で、実際の経済活動にあたっては明るく、前向きに行動していきたいものです。経済の実態以上にマインドが悪くなりませんように。
- こうした中で、平成19年12月の道北地域における空港利用客数が、若干ではありますが、10ヵ月振りに前年同月比でみて増加に転じた点に注目しました。冬場なので夏場と比べればその数は少ないのですが、東京 旭川、稚内 東京といったかたちで、道北地域の空港が利用されており、旭川から稚内まで移動する間に、紋別などの地域を巡る方々が増えております。紋別のほか網走などの地域が面しているオホーツク海沿岸には既に流氷が接岸しており、冬の北海道もなかなか魅力的です。知床はご存知のとおり世界自然遺産です。当地以外では通のみが知る、雪と氷の祭典「旭川冬まつり」も今日から始まりました<sup>(注)</sup>。圧巻です。

平成20年2月7日

尾家 啓之

(注)「旭川冬まつり」は2月11日をもって盛況のうちに終了しました。その模様は [旭川冬まつりの模様\(2008年\)](#) をご覧下さい。